1コリント11：26−34　　「主の晩餐②」　　8/9/20

A.　愛餐でない愛餐　17−22節
B.　聖餐式の意義　23−26節
1．聖餐式についての説明　23−25節

「この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」（25節）
⇒「**古い契約**」出エジプト24：1−8

⇒「**新しい契約**」エペソ1：7、1ペテロ1：18､19

2．聖餐式についての命令：「覚えて行いなさい」24､25節
①「覚えて」

②「行いなさい」

C.　聖餐式の目的　26節
1．世に対する責任を果たすこと　26節

2．主に対する責任を果たすこと　27−32節
①主に対して相応しくあること　27節
マラキ1：6

「子は父を敬い、しもべはその主人を敬う。もし、わたしが父であるなら、どこに、わたしへの尊敬があるのか。もし、わたしが主人であるなら、どこに、わたしへの恐れがあるのか。――万軍の主は、あなたがたに仰せられる。――わたしの名をさげすむ祭司たち。あなたがたは言う。『どのようにして、私たちがあなたの名をさげすみましたか。』と。

マラキ2：2

もし、あなたがたが聞き入れず、もし、わたしの名に栄光を帰することを心に留めないなら、――万軍の主は仰せられる。――わたしは、あなたがたの中にのろいを送り、あなたがたへの祝福をのろいに変える。もう、それをのろいに変えている。あなたがたが、これを心に留めないからだ。

「相応しくない状態」とは？
⑴

⑵

⑶

②主に対して相応しくある為に　28節
●「自分を吟味すること」28節　　2コリント 13：5、ガラテヤ6：4

③主に対して相応しくあることの大切さ　29−32節
⑴裁きの約束　29節

⑵裁きの実際　30−31節
●「弱い者」
●「病人」
●「死んだ者」

⑶裁きの種類　32節

D.　愛餐についての結論　33−34節